

国土交通大臣 石井啓一 様  
国土交通省九州地方整備局長 増田博行 様  
国土交通省立野ダム工事事務所長 鶴木 和博 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康  
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一  
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也  
代表連絡先 熊本市西区島崎 4 丁目 5-13 中島康 電話 090-2505-3880

## 立野ダム事業に関する説明責任を求める要請書

一昨年の熊本地震とその後の大雨で、立野ダム建設予定地の両岸は大きく崩壊し、ダム水没予定地周辺の大半が崩れました。多くの住民が「こんな危険な場所にもうダムは造られない」と思いましたが、国土交通省が設置した技術委員会は、同省の「立野ダム建設は技術的に可能」との見解をそのまま認めてしまい、同省は立野ダム本体建設に取り掛かろうとしています。

国土交通省は、これまで住民が提出した 9 通の公開質問状に全く回答せず、「ホームページで丁寧に説明している」との姿勢です。しかし、ホームページ上の同省の見解は、住民の質問に対して肝心な点には答えていません（別紙論点对比表参照）。1 月 12 日の九州地方整備局での 3 団体への説明も、国交省のホームページのコピーを配り、その範囲内のもので、住民からの公開質問状にまともに答えたものではありませんでした。

また、白川流域住民の大半が、立野ダムが建設されること自体を知る機会さえありません。国土交通省はこれまで住民が何度も要請した立野ダム説明会さえ一度も開きません。同省は昨年 7 月より、立野ダム予定地を含む「白川復旧・復興対策現地見学会」を 4 回開きましたが、その開催は住民に周知されず、インターネット等で予約したごく少数の住民しか参加できませんでした。事前に提出していた公開質問状への回答は一切なく、その場での質問に対しても「ホームページを見るように」と繰り返すばかりでした。現地見学会とダム説明会は全くの別物です。

国土交通省が、「立野ダムを住民のため、次の世代のため、未来のために建設する」と考えているのならば、なぜ堂々と説明しないのでしょうか。

地元議会や県議会での質問で、首長は住民に対し丁寧な説明を国に求めていきたいと答弁しています。国土交通省は首長の要請にこたえているのか大いに疑問があります。立野ダム事業に関する説明責任を強く求めるとともに、下記 3 点について要請します。5 月 31 日までに文書での回答を求めます。

### 記

1. 別紙「論点对比表」の「住民側の質問・見解」の項目ごとに、質問内容に沿った回答を行うこと。
2. 白川流域の市町村ごと、熊本市にあつては白川沿いの中学校区ごとに、地元自治体と協力して立野ダム事業に関する説明会を開催すること。その際、国土交通省と住民側双方から立野ダムに関する説明を行う時間を確保し、住民からの質問には真摯に回答すること。
3. 上記説明会が開催され、国が立野ダム事業についての説明責任を果たし、多くの住民が立野ダムについて理解するまでは、立野ダム建設事業を一時中断し、白川の河川改修や熊本地震の復興を促進すること。

以上

【参考資料】



熊本地震後の立野ダム水没予定地。大半が土砂崩壊をしている。(パスコ航空写真に加筆)  
ダムの水位が上がれば、立野溶岩の表面に堆積した火山性堆積物が崩れ、  
湛水(たんすい)地すべりが発生するのは明らかである。



熊本地震前後の立野ダム水没予定地。黒川上流側から北向山方面を望む。奥に見えるのが長陽大橋。  
これでは下りていく道路をつくることのできないので、重機やダンプを下すことができない。  
土砂の搬出や、土砂崩壊対策工事も不可能である。